

すぐに検査を…

ある日の夕方、60歳代の女性が来局されました。「今日、突然、左手が動きづらくなって。湿布も買っていこうかしら」と。「痛みはない」ともいいます。

そこで、力仕事をしたか、ぶつけたか、転んだかなど、聴きました。すると、「別に何も…」。脳血管系の病気の可能性も考えられます。「今すぐ脳外科で診察してもらってください」と、タクシーを呼んであげました。

後日、元気な顔で来局され、次のように。「すぐに検査を受けられました。結果は、今のところ、何でもなし。一時的な閉塞があったかもしれないので、しばらくしたら、検査をしましょうといわれました」

後日、バツタリお会いしたときにも、あらためてお礼をいわれた次第です。

侮るなかれ

続いて、日曜日の昼ごろ、来局した60歳代の女性のお話。

「夜中に左手の感覚がなくなり、痛くもないし、シビレもない。ただ、自分で動かそうとしたら、まったく動かない…。1時間ほどしたら、だんだんと動くようになり、翌日、目が醒めたころには、何ごともなかったようで、夢でも見たのかしら」

朝には正常だったので、夫にもいわないつもりだったものの、一応話しておこうと、経緯を伝えたそうです。すると、受診するようにいわれたとか。

主治医に相談すると――。

「元に戻ったのであれば、明日まで様子

店頭から「こんにちは」

第109回

即検査を受けたほうがいいケースと遭遇 いつもと違う症状には要注意

今まで経験したことのない、からだの変調。家族に秘密にしたり、クヨクヨ悩んだりしないこと。速やかに受診する――。それが大切と痛感させられるケースが、続けてありました。



をみてください。もし再度起きたら、去年、患った胸郭出口症候群だけでなく、中枢性も疑わなくてはならないため、救急車を呼ぶか、救急外来受診したほうがいい」

そう、アドバイスされたとか。

そこで、脳疾患専門病院の救急外来で、MRI撮影をした結果、次のようにいわれたそうです。

「脳梗塞の気配はなし、キズもなしで、怪しいものは何も映ってない。大丈夫でしょう。ただ、3か月後に、再度MRI撮影をしましょうか。ちなみに、夜中に、そのようになったときには、ご主人を起こして、顔がゆがんでいないか、手だけでなく、足も大丈夫か、みてもらわないとダメです。脳の疾患で、手だけに症状が出ることはありませんから。今後は血圧をしっかりコントロール、コレステロールも下げるようにしてください」

そうして、女性はいいました。

「異常もなくホッとしたけれど、あれは金縛りだったのだろうか、夢だったのだろうか？ 不安は残るけれど、いずれにしても命拾いをしました」

いつもとは違う症状があったときは、侮らないことです。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとし じ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「よい日々にしていきましょう」

